

公表 事業所における自己評価結果

事業所名	児童デイサービス・アニマート江戸屋2号店		公表日 令和8年2月28日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	14		死角がなく、どこにいても利用者が確認できる ・面談時、人数が多い場合はスペースを拡げたりと工夫している	保護者評価で「いいえ」の票があり、遊び場、運動する場ではなく、療育を行う場として理解して頂く必要がある。発達支援室としては基準のスペースを確保している
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	14		加配職を配置している	特になし。基準人員にプラスで配置している
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	14		バリアフリー建築、動線がシンプル	特になし。建築時からバリアフリーで建築している。送迎車への乗降もスムーズにできる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	14		毎日、清掃、消毒を行っている×2	特になし。毎日の清掃、感染対策の拭き取り、消毒、空気清浄の為の大型空気清浄機を設置している
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	14		長方形のシンプルな部屋。衝立の配置で自由度高い。 ・テントを使用（着替え用）	全員、集団に馴染め個室が必要になったことは過去11年で一度も無い。着替えは一人用テントを紙紙している。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	14		支援会議でうまくいかないことの会議を行う	計画を実施しても改善が見られない場合は、計画が悪いと考え見直しを行っている
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		意見はありがたく受け止める。自己中心的な希望ではなく対応可能なことは改善、工夫を検討する 評価頂いた後、ミーティングをしています	最善を尽くす努力を惜しまない。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	14		毎日ミーティングを行っている×2	特になし。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14			特になし。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	14		非常勤のパートも多いため、工夫して全員に研修できる工夫をしている	マニュアルや研修量が多すぎて職員の仕事が増加している。義務研修を中心に整理する予定
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	14		ホームページで公表中	特になし。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	14		普段の様子をスタッフ間で共有し支援会議につなぐ	特になし。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	14		指導員から意見を出し合い、まとめている	特になし。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	14		利用者の課題は日々のミーティングでも共有している	特になし。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	14		LINEで情報交換して共有している	特になし。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	14		すべてしている	個別支援計画書にすべて項目があり、毎回、すべて埋めているので漏れることは無い
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	14		代表が立案し、みんなで意見を出し合っている	特になし。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	14		苦手、できない、難しいことに挑戦するプログラムを組んでいる。	はじめてする課題に困惑して苦手なものもあるが、継続するとできるようになるので、常に新しい課題を考えている
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	14		時間で分けている	集団活動の時間は集団療育として時間を決めて、一日で約50分かけて行っている。

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	14	毎日ミーティングをしている	当日の担当を決めミーティングで確認後、予定が狂った場合は迅速に連絡を取り合い修正している	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	14	その日にあったことを報告し、翌日、ミーティングを行っている	忘れないうちにスタッフ用LINEで投稿して共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	14	ミーティングの内容は記録している	連絡帳には支援者が何をどのように対応したか具体的に記載して残すことを心がけている	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	14	決められたとおりにしている	特になし。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	14	全て行っている（年間通して）	①自立支援と日常生活の充実のための活動②創作活動③地域交流の機会の提供④余暇の提供。この中で生活力を上げることに重点を置いている	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	14	待つ支援をして気づかせる、考えさせるようにしている	手を出し過ぎない事を心がけて、自立心を育てている。「あ、そうか」が聞ける支援	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	14	出席前に指導員から情報を得ている。LINE上で報告し合っている	常に情報共有は怠らない	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	14	関係機関との連携は密に行っている	医師への状況報告書は有難がれている。切れ目のない支援を行う為、密に連携している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	14	市内では各学校のメールを受信。年度はじめ、利用開始時に面談して確認している ・送迎時に申し送りをしてもらったり電話で確認。	災害、津波発生時の対応は保護者確認の元、学校へお知らせを提出して頂いている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	14	相談員、保護者から、その時のお話を聞き取り	特になし。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	14	就労先で必要であれば提供する	保護者からの依頼があれば報告書を作成している	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	14	センターHPで紹介されている、自閉症児者親の会まいわーどとは情報交換をおこなっている（研修や勉強会の誘い）	就労に関する情報はこちらの研修から得ていて、良い情報を得て、職員間で共有している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	14	アニマグループで交流が年1回ある（ファミリーコンサート ・アニマグループコンサートに参加しています	近年、毎年、アニマホールディングス主催のファミリーコンサートを地域の学童、デイに共有し参加して頂いている。毎年、400名程度の参加者がいる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	14	直接参加はできない。市の療育部会に参加 ・南城市療育部会に参加しています。	南城市いきがい推進課に確認しているが、事業所は直接、自立支援協議会へ参加できない	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	14	連絡帳に記載、LINEも使用。送迎時に伝える ・必要に応じて連絡をとっています	保護者LINEで写真や動画を載せている。LINE参加は情報開示禁止の同意書を頂いている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	14	保護者会、勉強会を開催しても参加者が集まらない。個々に対応している 定期的に保護者会を行っています	日々の連絡帳に相談、質問があれば回答している	
	保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	14	契約時に伝えている。プログラムは配布している	特になし。
		37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	14	支援の方向性に誤差が出た場合、面談で確認している	特になし。
		38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	14	はい	利用者の支援会議の出席は難しい為、説明して署名した上で計画書を作成している
		39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	14	日々、おこなっている ・相談があった際はすぐに	特になし。
		40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	14	保護者会を毎年、企画しているがほとんど参加者がいない。今年度は久しぶりに2人参加 ・定期的な保護者会、おたのしみ会を行っています。	保護者会参加者が2年0だった為、今年度は定休日の土曜に開催。それでも2名のみの参加。
		41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	14	苦情はない。体制は整えてありマニュアルも作成済み	特になし。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	14		保護者専用LINE、江戸屋YouTubeチャンネルで発信している	配信しても視聴はされていない。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	14		マニュアル通り徹底している	ヒヤリハットは業務マニュアルとして活用している。マニュアル、研修で行っている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	14		話す言葉を構造化して掲示している 連絡帳がある	掲示物が多くなっているので、障害のある子には不向きな為、整理したいと考えている
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14		アニマートコンサート、保護者相談会是一般向けに周知している	沖縄県内アニマートグループ、地域の学童やデイサービスも参加している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	14		各マニュアルを作成して訓練をしている。保護者のLINEで周知	いざという時にマニュアル確認できる様、掲示よりも一つのファイルに入れて保管している
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	14		規定どおりおこなっている	半年ごと1回で年2回行っている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	14		服薬の状況は確認し発作の有無も聞いている ・服薬必要の際はすぐにLINEで情報共有 定期的にてんかん発作時の訓練を行っています	薬を預かる場合は、定期的に期限を確認して返却している
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	14		アレルギー（ピーナツ、そば、魚介などアレルギー検査結果に対応	週1度のお菓子詰め合わせは、中身をすべて確認しアレルギー源がないかチェックを行っている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	14		行っている。	安全計画と処遇改善加算取得の為の段階別社内研修の内容が重なり、研修の量が多くなってしまっている。職員の負担を減らす為、次年度は整理したい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	14		保護者だけでなく学校へも周知している	緊急時にはアニマートが保護者に代わって学校に迎える依頼書を保護者から学校へ提出してもらっている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	14		ヒヤリハットに基づいた業務マニュアルがあり、定期的に自己評価と代表の評価をしている	過去の事故報告を参考にし、あらゆる場면을想定した表になっている。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	14		定期的に研修をおこなっている	休みの職員には後で研修内容を動画で視聴させている。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	14		マニュアルを作成している。必要な利用者がいる場合は同意書を作成している。記録用テンプレート	身体拘束適正の為、マニュアル、専用様式を差空制済み